

令和7年度穎明館高等学校卒業式式辞

穎明館第39期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、心より、お慶びお祝い申し上げます。

本日は、学園本部から理事長の堀越正道先生、副理事長の堀越由美子先生、堀越高等学校校長の掛本寿雄先生をお迎えし、ご列席の保護者・教職員・在校生の皆様とともに、卒業式を挙げることを誠にうれしく思います。

卒業生の皆さん、6年前を思い出して下さい。2020年4月、コロナ緊急事態宣言により、中学校入学式を開催できませんでした。社会的な不安の中での休校、オンラインHR・授業、学年別登校から分散登校の日々。その後もコロナ禍の中で、求められた我慢や工夫。それでも皆さんは決して嘆くことなく、前向きに学校生活を送っていました。コロナ禍が収束する中で迎えた高校生活。高校1年生では念願のUSA・カナダ体験学習を成功させました。シアトルでの皆さんの生き生きとした笑顔は決して忘れられません。現地でインフルエンザが流行したことには心配が尽きませんでした。病院の付き添いやシアトルに一人残って皆さんの出国を見送ったことなどを含めて、私にとっても体験学習だったなと思い出されます。人間、いくつになっても学ぶことは生きること、生きるとは学ぶことです。校長としてともに歩んだ6年間、39期生の皆さんには、強い思い入れがあります。ともに学べたことに改めて感謝申し上げたい。ありがとう。

「感謝を伝えること」については、校長HR行脚の時にも話しましたね。卒業という節目に、皆さんも、お世話になった方々への感謝の気持ちを、言葉にしてきちんと伝えてください。

さて、今日は卒業のはなむけとして、創立者堀越克明先生が以前、式辞で取り上げられた「志の道」についてお話したいと思います。四国の4つの県が接するあたり、愛媛県四国中央市にある由緒ある道、それが「志の道」です。その沿道に12の石碑が建っていて、その石碑には四国にご縁のある方々の名前とその方々が遺された言葉が残っています。創立者堀越克明先生は、人生の指針にしてほしいと願いを込めて、12の石碑の中から、松下幸之助さんの石碑の言葉を選んで紹介されました。

それでは説明とあわせて、よく聞いてください。

自分には自分に与えられた道がある。
天与の尊い道がある。
どんな道かは知らないが、
他人には 歩めない、
自分だけにしか歩めない、
二度と歩めぬ かけがえのない道。

「 人生は、よく旅にたとえられる。この世に生まれ落ちたその日から、生命を終える日まで、毎日毎日続く長い旅である。そして、その道中では、新しい体験を行い、その度に新しい自分を発見していく旅である。

その旅の持つ意味は、自分自身で決めていくべきである。道すがら、少しきつい坂道になったり、ぬかるんだところにさしかかるとその道に対して、悪態をついたりしながら歩む人もいよう。一方、疲れ切ってへとへとになりながらも、路傍に咲く小さな花に喜びを覚え、天に感謝を捧げつつ歩む人もいよう。そのどちらかを選択するかは、道の問題ではなくて、その道を歩む人自身の問題なのだろうと思う。

ならば、各々の人生の旅を、喜びにあふれ、有意義なものとするために、私たちの心の側を見直してゆくことも必要であろう。

人生には、苦しいこともあるだろう。つらいこともあるだろう。途方に暮れてしまうこともあるだろう。しかし、どんなことがあっても、それは、すべて自分の人生。他の人には決して歩めない、また、元に戻って歩み直すこともできない、そのような天から与えられた自分だけの人生なのである。だから、その尊さを感じながら、自分の心意気によって、努力によって、自分の人生を輝かせてゆくべきではないか。」

卒業生の皆さん、どうでしょうか。今日は皆さんにとって巣立ちの日。人生という道を、新たな希望と決意をもって歩みだす日です。志の道——他人には歩めない、自分だけにしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのない道を、力強く一歩一歩あゆんでいってほしい。松下幸之助さん、そして創立者堀越克明先生の言葉に、私自身の思いをのせて伝えておきます。

式辞の結びは、『学び舎 愛唱歌集』です。昨年、2025年は穎明館創立40周年の年であり、私はさまざまな資料を読み返す中で見つけたものが、この『学び舎 愛唱歌集』でした。平成3年5月10日、堀越学園発行とあります。昨年の卒業式で紹介し、一曲披露したところ、わりと好評で、今年も愛すべき39期生のために「最後は歌う校長でいよう」と思った次第です。今日は、式辞の「志の道」に通じると思われる「若者たち」を独唱します。気持ちを込めて歌います。聞いてください。

若者たち

きみの ゆくみちは はてしなく とおい
だのに なぜ はをくいしぼり
きみは ゆくのか そんなにしてまで

きみの あのひとは いまは もういない
だのに なぜ なにをさがして
きみは ゆくのか あてもないのに

きみの ゆくみちは きぼうへとつづく
そらに また ひがのぼるとき
わかものは また あるきはじめる

誇り高き穎明館39期生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんの人生に幸多かれ。

以上、令和7年度穎明館高等学校卒業式式辞といたします。